

特別国民体育大会

我らかく戦う

期 日 令和5年9月16日(土)～9月24日(日)

会 場 鹿児島県鹿児島市 他

公益財団法人 北海道スポーツ協会

我 ら か く 戦 う

特別国民体育大会(会期前実施競技)

競 技	種目/種別	評価	予想順位・得点	戦 い の 展 望	有 望 選 手 ・ チ ー ム	特 記 事 項
水 泳	競泳	3	個人1位・8点 (黒田 一瑳/100m自由形) 個人5位・4点 (諏訪 遥希/200m背泳ぎ) 個人6位・3点 (伊藤 瑠飛/50m自由形) 個人6位・3点 (河野 通虎/200mバタフライ) 個人8位・1点 (蝦名 愛梨/400m自由形)	少年男子Bの健闘を期待している。	少年男子B 黒田 一瑳(札幌大谷高等学校1年) 少年男子A 諏訪 遥希(札幌大谷高等学校3年)	黒田 一瑳(札幌大谷高等学校1年) 2022年度全国中学 50m・100m自由形 優勝
	OWS	5	個人1位・8点 (蝦名 愛梨/女子5km)	蝦名愛梨選手を中心とした展開が予想される。スタートから先頭集団に位置し、2周目からトップに立ち優勝を目指す。過去3年間中止と大学生最後の今年こそは初優勝を勝ち取る。	蝦名 愛梨(日本体育大学4年) 帯広大谷高等学校出身	蝦名愛梨選手(日本体育大学4年)は、世界選手権福岡2023に日本代表として参加し、10km・リレーに出場し活躍する。2022年度日本選手権10km・5km優勝の成績を残す。特に、10kmは2連覇と輝かしい成績を残す。また、2017年~2022年(2020~2022中止)国体出場し、2017年11位、2018年8位、2019年6位に入賞する。
ローイング	成年男女	3		全種目準決勝以上の進出を目指し、男子舵手付フォアと女子舵手付オドルプルではポイント獲得を目指す。		
	少年男女	3		全種目準決勝以上の進出を目指し、男子ダブルスカルと女子シングルスカルではポイント獲得を目指す。		
ビーチバレーボール	少年男子	2		雪解け時期から、ビーチへ通いプロトップ選手との練習や強化指導部の皆さんの指導により、体づくりと基礎練習を積み重ねてきた。地方大会出場を利用して試合想定での練習を行った。北海道の不利な条件も短期間の集中と強化練習、日常生活での高い意識が継続できるように取り組んだ。その成果が発揮できたら良い戦いが期待できる。	瀬崎 優輝(北海道札幌真栄高等学校3年) 小学5年よりビーチバレーを本格的に始める。ジュニア時代は、藤沢カップ出場。インドアでは小学生・ヤングバレーで全国大会へも出場している。	瀬崎 優輝(北海道札幌真栄高等学校3年) 第77回大会から連続出場 工藤 楓奏(北海道伊達開来高等学校2年) 第74回大会に兄が出場の兄弟出場
	少年女子	1		勝敗にこだわらず、練習で身につけた実力を全て出し切ることに徹して、明るく楽しくプレイする。		
体 操	成年男子	5	団体7位	個々の力が発揮できれば入賞できると思う。		
	成年女子	4	団体7位	シニアの選手で構成要素が足りている演技なので、ミスのない試合を望みたい。		
	少年男子	2	団体18位	予選通過決勝進出を目指す。		
	少年女子	2	団体15位			
	新体操	4	団体10位 個人18位(鈴木 結愛/フープ) 個人8位(森下 瑠子/ボール) 個人13位(川田 愛心/クラブ) 個人18位(石川 妃夏/リボン)	北海道インターハイを見据えて、アニメ「ゴールデンカムイ」の“旅の幕開け”という曲で北海道の自然、空と海、そしてゴールデンカムイの世界観を表現した作品です。他県にはない北海道らしさを表現します。新体操は芸術性、表現を重視する採点方法に変わったため、難度や実施度だけでなく、自分たちの表現力が順位に大きくかわるものと思日々努力をしています。少しでもその表現が伝わるようであれば、賞状に近づくと考えます。		北海道インターハイ団体17位 個人総合18位 森下 瑠子(北星学園女子中学高等学校2年)

体操	トランポリン	3	個人6位 (山崎 凌空/男子) 個人10位 (末富 穂香/女子)	山崎凌空選手は、持ち前の高さで演技が成功すれば決勝進出の可能性は極めて高い。決勝での出来栄次第で順位は大きく変動する。 末富穂香選手は、怪我から復帰して間もなく今回の国体代表を勝ち取っている。競技内容を見てもまだ力が戻りきっていない様子だが、持ち前の基礎力を生かした演技で決勝進出の可能性は高い。決勝でいかに自分のベストを出せるかがポイントとなる。	山崎凌空(金沢星稜大学2年) 世界年齢別大会2年連続日本代表 個人銅メダル 全国高校選手権準優勝 全道大会連覇 釧路出身で初出場。国際大会の出場経験も複数回あり、高校在学中は北海道のエースとして活躍していた。現在は強豪チーム星稜大学クラブでさらなるレベルアップを目指している。 末富穂香(静岡産業大学3年) 2021年第8回全日本トランポリン競技年齢別選手権17-21才女子優勝 北見出身で2回目の出場。膝の靭帯損傷から復帰して間もないが、基礎能力の高さは健在。前回大会では入賞しているため、今回も入賞に期待。	
レスリング	成年男女	4	個人5位 (清水 賢亮/グレコ72kg級) 個人5位 (佐々木 すす/フリー62kg級)	大学生を中心に若い選手であるが、世界選手権に出場した選手もおり、充実したメンバーで大会に臨むことができる。	昨年インターハイ優勝の佐々木すす選手(中央大学1年)が大学生になり、上位入賞が狙える選手である。 清水賢亮選手(陸上自衛隊)も昨年3位に入賞しており、今大会でも期待ができる。	
	少年男子	4	個人5位 (稲川 瑛太/フリー51kg級) 個人5位 (野口 佳祐/フリー60kg級)	帯広北高校を中心に小さなころからレスリングを行っている選手が多く、地元開催のインターハイでも活躍した選手がいたので上位入賞の期待が持てる。	北海道インターハイ個人戦フリー51kg/稲川瑛太選手(帯広北高等学校2年)とフリー60kg級野口佳祐選手(帯広北高等学校1年)が3位に入賞し、国体でも上位入賞に期待ができる。	
ゴルフ	成年男子	4	団体10位 個人10位(山本 詠太) 個人15位(小村 隼士) 個人20位(島田 温太)	夏から調子が良くなってきた島田温太選手(東北福祉大学1年)がチームに勢いをつけられるかが鍵。1日目終了して15位に入れば、上位入賞も見えてくる。	山本 詠太(大手前大学1年)	
	少年男子	2	団体20位 個人20位(ゴヴォロフスキー-大河) 個人25位(ゴヴォロフスキー-遼河) 個人30位(田邊 武士)	パープレーに徹すれば順位を上げることが可能。 無理なプレーをせず、1打1打を慎重にプレーしてほしい。		ゴヴォロフスキー大河(北海道札幌南高等学校3年) ゴヴォロフスキー遼河(札幌光星高等学校1年) 兄弟出場
	女子	4	団体10位 個人10位(河上 宮甫子) 個人10位(斎藤 碧夏) 個人10位(島田 ゆら)	チーム最年少の斎藤碧夏選手がチームに勢いをつけられるかが鍵。 大学生の2名が安定した成績を出せれば上位入賞の可能性もある。	斎藤 碧夏(札幌光星高等学校1年) 2022年度全国中学校ゴルフ選手権春季大会2位	